

天声人語

大型クルーズ船から乗客が下りるといのは同じでも、その二つのやり方はあまりに対照的だった。一つは米国民をチャーター機で本国に移送する様子。

機内では宇宙服のような防護服を身にまとう人が対応し、帰国しても米軍基地で2週間隔離するという▼もう一つは、その3日後にあった400人余りの下船。検査で陰性だったので、電車など公共交通機関を使って帰宅することが許された。二つの下船風景の違いは、横浜港に停泊していた船内の様子をどう見るかによる▼米国は感染を防ぐ手立てが不十分だったと見る。だから下船は「ホットスポット（危険地帯）」からの脱出に過ぎず、まだ隔離して様子を見なければならぬ。日本の当局は、感染対策はきちんとなされていたという姿勢である▼当初は米国や国際機関も、乗客を船内に待機させるという日本の方針に理解を示していた。しかし感染者の急増で見方を変える。「状況は変化し、船内で予想以上に感染が広がったのは明らかだ」と世界保健機関は指摘した。日本政府の対応は柔軟さを欠いたのか▼「船がウイルス培養器になったかに見える」と米ワシントン・ポスト紙の記事にあった。どぎつい表現である。しかし日本の外で目にしたなら、違和感なく読めるのかもしれない。ついに乗客から犠牲者が出してしまった▼船内で何が起きていたのか。もしもメンツにこだわって、その検証がい加減に終わるようなら、戦わずしてウイルスに負けるようなものである。